

## 北海道SDGs推進ネットワーク設立趣意書

2015年9月、国連で150を超える加盟国首脳が参加の下、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択され、その中核として17のゴール（目標）と169のターゲットからなる「SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）」が掲げられたところであり、国際社会では、先進国と開発途上国を問わず、かけがえのない地球環境を守り、「誰一人取り残さない」多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、SDGsの達成に向けた取組が広がっています。

日本国内においては、政府が2016年5月に「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置し、2016年12月には「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を決定し、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンとして掲げたほか、2017年12月に改訂された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、SDGsの推進は、地方創生に資するものであり、その達成に向けた取組を推進することが重要と位置付けられました。

北海道は、今、急速に進行する人口減少や高齢化、道民の安全・安心を揺るがす大規模自然災害の発生など、地域の存亡に関わる難題に直面しており、また、グローバル化や高度情報化などの進展は、私たちの日々の暮らしや産業活動などに大きな影響を与えています。一方で、北海道は、豊かで美しい自然環境や広大な大地と海、安全・安心な食、豊富で多様なエネルギー資源に恵まれるとともに、アイヌ文化や縄文遺跡群といった独自の歴史や文化を持つなど、他の地域には見られない、本道ならではの価値や強みを有しています。

今年、2018年、私達が暮らす「北海道」は、その命名から150年という節目を迎え、また、6月に北海道が、札幌市、ニセコ町、下川町とともに、国から「SDGs未来都市」に選定された中、これから先の50年、100年後に向け、地域創生の成果を確かなものとし、世界の中で北海道の存在感を高め、世界とともに歩む持続可能な地域づくりを進めていくため、SDGsの達成に向けた取組を積極的に推進することが重要であると考えます。

SDGsの推進に当たっては、公共セクターと民間セクターの垣根を越え、自治体や企業、団体・NPO、教育・研究機関など広範な主体の連携が不可欠です。このため、この度、「北海道SDGs推進ネットワーク」を設置し、道内各層へのSDGsの浸透を促すとともに、そうした多様な主体による連携・協働関係を構築するなど取組の裾野を拡大していくこととしました。

つきましては、本道におけるSDGsの推進のため、皆様のご理解・ご協力とネットワークへのご参加をお願い申し上げます。

2018年8月

北海道総合政策部長 小野塚 修一